

鈴木誠（東京農業大学造園科学科教授）



はじめに 学会創立 20 周年を迎えて

学会長を務めさせていただくにあたり、ごあいさつ申し上げます。

学会員の皆さまとのコミュニケーション手段は、この「学会ニュース」が唯一です。少し長くなりますが、新学会長の抱負も含めて述べさせていただきます。

1992年(平成4)6月に正式発足した日本庭園学会は、本年2012年6月をもって20周年を迎えました。その記念すべき節目に学会長に推挙いただきました。

20年の年月。これは前学会長の藤井英二郎先生ともお話ししたのですが、振り返ってみるとあっというまであったように感じます。

さて、20周年を迎えて、目だった行事はないのか(?!)、という学会員の声も聞こえてきそうですが、2012年を迎えるにあたり日本庭園学会内外での出来事をご紹介させていただきつつ、むこう2年間の学会長としての抱負についても触れさせていただきます。

まず、20年を迎える日本庭園学会の抱える課題に対応すべく、「日本庭園学会将来検討委員会」(平成23・24年藤井英二郎委員長、平成24・25年度小野健吉委員長)が設けられ2年間の検討の上、「(仮)日本庭園学会の今後のあり方について」(平成24年6月)という答申が出されました。この全文については、この学会ニュースに掲載させていただくと共に、学会ホームページにもその内容を掲示させていただいています。内容をご確認の上、是非ご意見をお寄せいただければ幸いです。そして、この中間答申内容に基づき学会としていくつかの課題解決については、着手させていただこうと思えます。

以下はその「今後のあり方」にも関わっての動きです。

「日本庭園学会誌」の公開電子アーカイブ化

2009年(平成21)の総会でご承認いただきました、独立行政法人科学技術振興機構(JST)による、主要学術雑誌の電子アーカイブ化事業(Journal@rchive)への、「日本庭園学会誌」の応募は、平成21年度選定学術雑誌の一つとして無償(JST負担)による電子アーカイブ化が決定しました。その後、ご案内のとおり著作権などの確認作業を実施し、JST側の都合により事業実施がやや遅れたものの、2010年度中に各種作業を完了。2011年5月、無事JST電子アーカイブに「日本庭園学会誌」(第1号~第20号)が掲載されました。

その後、新規発行の「日本庭園学会誌」についてもJSTの電子ジャーナル事業J-STAGEへの無償掲載が認められ、2012年2月よりその運用を開始、学会誌第21号以降が順次電子アーカイブ化されています。今後、「日本庭園学会誌」は冊子として発行された後、6か月後には電子アーカイブ化されて全世界の研究者へ情報提供されます。

この事業に関わり3年間にわたりご苦労いただいた、企画委員会、総務委員会、編集委員会の皆さまには改めて御礼を申し上げます。

平成24年度学会賞受賞業績と地方の庭園研究

6月の総会において2名の学会員が学会賞を受賞されました。おめでとうございます。

皆さまには、是非その受賞業績にご注目いただきたいと思います。

小口基實氏「信州の庭など地方の庭園研究」

西桂氏「兵庫の庭など地方の庭園研究」

20周年を迎える日本庭園学会総会において、日本庭園の地域性に着目した研究業績が学会賞を受賞した、ということは単に偶然ではないように思います。学会員の皆さまがそれぞれの地域において、研究活動を実践し、その成果が日本庭園学会の活動の源ともなっていることを考えると、学会創立20周年という時期に相応しい受賞業績である、といえましょう。今後、地方の庭園研究は本学会の進めるべき方向の一つと考えております。

海外学術団体との連絡・連携

これまで、海外の学術団体への「日本庭園学会誌」の寄贈や、海外からの研究者来日に合わせた研究会開催な

どを学会事業として実施してきました。

日本庭園学会が20周年を迎えた今年2012年10月、北米日本庭園協会（North American Japanese Garden Association）が発足しての第1回目の年次大会が開催されます。これまで、日本における準備会（2010年3月）ほか、北米各地で10回の地域会議を経ての全国大会となりますが、北米に限らずヨーロッパ、日本からの参加者もあり国際的な会議となるようです。この会議には、藤井前学会長の招待講演も予定され、学会員の山田拓広さんや、私たちの研究グループも成果発表いたします。

そこで、この機会に学会の事業と目的を定めた定款第2章第5条第4項「海外学術諸団体との連絡および連携」を、正式なかたちで実現できないか検討させていただきたいと思っております。

学際性をにらんだ研究会と学会員の確保

「日本庭園学会誌」が電子アーカイブ化されたこと、学会ホームページに「学会ニュース」がアーカイブ化されたこともあり、学会の研究・活動内容の紹介が容易にできるようになりました。20年間の実績も強調できる内容です。また、別途ですが日本庭園に関する研究情報一般もインターネットを通じた研究課題・研究者検索にて比較的容易にできるようになりました。

そこで、日本庭園学に関わる学際的な研究会、講演会、見学会などの企画とその案内、日本庭園に関わる研究実績をもつ研究者の発掘と学会へのお誘いなども順次実施させていただきたいと思っております。

そのためには、何にも増して研究会、見学会などの充実が重要です。会員の皆さま同士、またこれから会員になっていただく皆さまとの出会いの場であり、若い会員にとっても実際に研究交流できる機会でもあります。この充実に努めたいと思っております。

平成25年度全国大会（名古屋）の開催について

20年来全国大会は東京周辺で春に開催し、秋に関西大会を実施してきました。地方の庭園研究を進めることも考え、来年度の全国大会は名古屋での開催を企画していただいております。例年の通りの6月第2土曜日・日曜日ですと、2013年6月8日（土）、9日（日）が開催日予定日です。来年のカレンダーにご予定を早めに入れていただければ幸いです。また、来年の全国大会では研究会、研究シンポジウムの活性化、学際性の強化なども視野にいれて大会企画が進行しております。多くの皆さまのご参加と研究発表の申込みをお待ち申し上げます。

す。

以上、理事の皆さま、各委員会の皆さまと共に学会運営を円滑に、そしてより活発で充実したものとなるよう努力したいと思っております。

最後になりましたが、学会員の皆さまの益々のご活躍を祈念し、また、皆さまの学会活動への積極的な参加をお願い申し上げて、学会長就任のごあいさつとさせていただきます。 ■